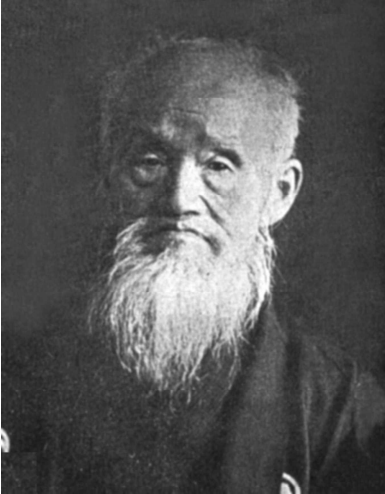


た なか ぜん すけ

# 田中善助



田中善助(1858～1946)  
出典：『田中善助伝記』1998

## 精力絶倫、八面六臂の手腕

### — 巖倉水力発電所の建設と伊賀鉄道の設立 —

田中善助は、1858(安政5)年、伊賀上野町の下駄屋、竹内長兵衛の長男・寛次郎として生まれた。東京に出る夢を捨て1872(明治5)年、15歳で義弟・田中善助が営む金物商・金善の養子に入り、商人として実業に励んだ。1896(明治29)年に伊賀上野銀行の前身である伊賀貯蓄銀行を設立、副頭取に就任した。

#### ■伊賀の電気王としての業績

水力発電事業に早くから注目し、独力で巖倉水力発電所の建設を始め4度の失敗を重ね、1904(明治37)年に完成し、巖倉水電株式会



巖倉水力発電所の建設 出典：『田中善助伝記』1998

社の社長に就任した。

また、1910(明治43)年、上野商工会会長に就任、その後、関西水力電気、伊和水電、近江水力電気、比奈知川水力電気などを設立するなど、電気事業の足跡は三重、奈良、滋賀、京都の4府県に及び伊賀の電気王と呼ばれた。

#### ■鉄道事業の業績

1914(大正3)年、伊賀軌道(株)を設立し、大正5年に伊賀上野と上野町を開通、翌年、社名を伊賀鉄道に改称し、1922



巖倉水力発電所の完成した水路 出典：『田中善助伝記』

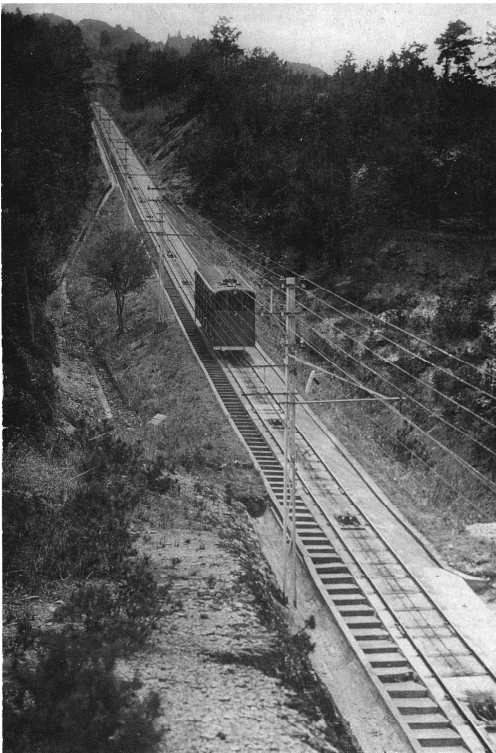
年に上野町と名張間が全通、1926年に電化された。

1921(大正10)年、朝熊登山鉄道あまこまを設立した。この登山鉄道は、当時ケーブルカーとして多くの伊勢神宮参拝客が利用したが、1944年に不要路線として廃止された。

#### ■地域産業と文化に貢献

青年時代から地元の治水や開墾に尽力、1825(明治25)年に月ヶ瀬梅林の保護を図るため「風景保護請願書」を帝国議会に提出した。さらに還暦を過ぎた1924(大正13)年から上野町長に就任し下水道の整備などを図った。

また、清少納言にゆかりのある榊原温泉に1937(昭和12)年に神湯館を建て復興させたので、地元で昭和31年に温泉復興功労者田中善助翁碑を射山神社に建立した。さらに茶道、書道などにも造詣が深く「鉄城」と号し風流人としても地元貢献した。



朝熊登山鉄道

葉書：石田正治蔵

(寺沢安正)